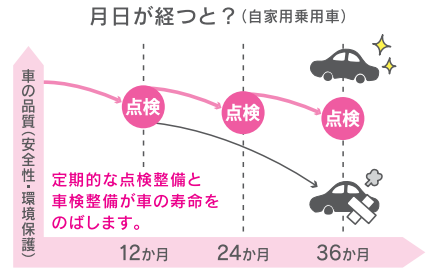


快適なドライブは簡単な日常点検から。 しっかり定期点検も忘れずに。

日常点検や定期点検をきちんと行っていますか。

日頃こまやかな点検を行っていれば、運転中のトラブルの多くは回避できます。

クルマの健康管理は、クルマを守るだけでなく、人の命や環境も守ることにつながります。

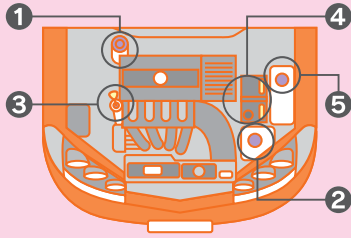


- 日常点検** 日常点検は、日頃、自動車を使用している中で、走行距離や運行状態などから判断し、適切な時期に点検整備を行いましょ。
- 定期点検** 定期点検は、安全の確保、公害防止の観点から、自家用乗用車は12か月および24か月ごとに実施しなければなりません。

マイカーを点検しよう! 日常点検 15 項目チェックシート

判定 ○ or ×

日常点検 #01

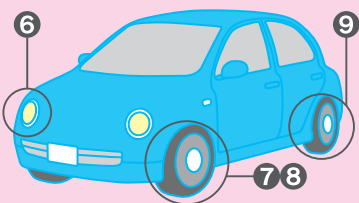


エンジンルーム 5項目

- 1 ブレーキ液の量**
ブレーキ液のリザーバ・タンクを見て、液量が上限ラインと下限ラインの間にあるかどうかを点検します。液量が下限ラインより低い場合は、安易に補充せず、早急に整備のプロに相談しましょう。
- 2 冷却水の量**
冷却水のリザーバ・タンクを見て、液量が上限ラインと下限ラインの間にあるかどうかを点検します。この冷却水が下限ラインに近い、それより少ない場合は、上限ラインまで冷却水を補充しましょう。
- 3 エンジン・オイルの量**
エンジンに付いているオイル・レベルゲージを抜きとり、付着しているオイルを拭きとってから、ゲージをいっぱい差し込み、再度抜きとってオイルの量を見ます。ゲージの先端についている2本のラインか、ギザギザ部分の目印の中間にオイルがあれば合格です。ゲージの下限ラインよりもオイルが下側にあるときは補充しましょう。また、汚れている場合は交換しましょう。
- 4 バッテリー液の量**
バッテリーの液量が規定の範囲(上限と下限の間)にあるかを車両を揺らすなどして点検します。バッテリー液は腐食性が高いので、体、衣服、車体などに付着しないよう注意しましょう。
- 5 ウインド・ウォッシャー液の量**
ウインド・ウォッシャー液の量が適当かを点検します。液量が少ない場合は上限まで補給しましょう。

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

日常点検 #02

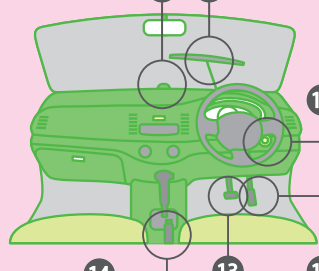


外回り 4項目

- 6 ランプ類の点灯・点滅**
クルマにはヘッド・ランプ、車幅灯、ストップ・ランプ、テール・ランプ、ウinkerなど、多くのランプが付いています。点灯・点滅の有無を確認し、レンズの汚れや損傷も調べましょう。点灯・点滅していない場合は、すみやかに交換しましょう。
- 7 タイヤの亀裂・損傷の有無**
タイヤの亀裂や損傷の有無を目や手で確認するとともに、タイヤに異物が付着していないかを入念に点検します。タイヤにかみ込んだ異物はきれいに取り除きましょう。また、タイヤが片減りしている場合は要注意。整備のプロに相談しましょう。
- 8 タイヤの空気圧**
タイヤの接地部のたわみ具合を目で見て判断しましょう。接地部のたわみ具合で判断ができればタイヤゲージを使って点検しましょう。タイヤの空気圧が不足している場合は、指定空気圧まで補充しましょう。
- 9 タイヤの溝の深さ**
タイヤの溝の深さが浅くないかをタイヤの接地面のスリップ・サインを目印に、チェックします。スリップ・サインは溝の深さが1.6mm以下になると、現れます。溝の深さが足りないと、スリップしやすくなり、雨天走行時はとても危険です。サインが現れたら、早急にタイヤを交換しましょう。※スリップ・サインは、タイヤ側面の三角マークのある位置の接地面に出現します。

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

日常点検 #03



運転席 6項目

- 10 エンジンのかかり具合・異音**
エンジンが速やかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。また、エンジン始動時やアイドリング状態で、異音がないかを点検します。
- 11 ウインド・ウォッシャーの噴射状態**
ウインド・ウォッシャー液を噴射させ、ワイバの作動範囲に噴射されるかチェックします。また、その向きや高さが適当かを点検します。
- 12 ワイバの拭き取り能力**
ワイバを作動させ、低速および高速の各作動が不良でないかを点検します。また、ウインド・ウォッシャー液がきれいに拭き取れるかを点検します。ワイバのから拭きは、ガラスを傷つきますので、ウインド・ウォッシャー液を噴射してからワイバを作動させましょう。
- 13 ブレーキの踏みしろときき具合**
エンジンをかけて異音がないかどうか確かめたら、ブレーキ・ペダルを強く踏み込んだとき、床板との間(踏みしろ)が適当かどうか確認します。また、その踏みごたえがいつもと違うと感じたら要注意です。踏みごたえの違いの判断は、新車時や定期点検直後のブレーキ・ペダルのフィーリングで判断するといいてしょう。
- 14 駐車ブレーキの引きしろ(踏みしろ)**
駐車ブレーキをいっばいに引いた(踏んだ)ときに、引きしろ(踏みしろ)が多すぎたり、少なすぎたりしないかをチェックします。ブレーキ・ペダルと同様に、新車時や定期点検直後の違いを比較してください。
- 15 エンジンの低速・加速状態**
エンジンを暖機させた状態で、アイドリング時の回転がスムーズに続くかを点検します。次に、エンジンを除々に加速したとき、アクセル・ペダルに引掛かりがないか、スムーズに回転が上がるか、走行するなどして点検します。

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

※自家用乗用車の定期点検は、1年ごとに点検を行う項目が細かく決められており、整備のプロにまかせたほうが安心です。